

大正13年1月 裕仁親王殿下（昭和天皇）と良子

女王（皇淳皇后）ご成婚

大正15年7月 那須御用邸本邸御殿及び臣下合宿

所竣工

大正15年12月 大正天皇崩御により裕仁親王殿下

が即位

昭和に改元

昭和2年 那須近光荘に山荘が建築される

昭和5年7月 皇子御殿及び女官部屋を増築

嚶鳴亭及び澄空亭竣工

昭和8年12月 明仁親王殿下（今上天皇）ご誕生

昭和9年8月 1カ月のご滞在を最後に中断となる

昭和10年7月 御用邸付属邸御殿及び付属建物竣工

昭和16年12月 太平洋戦争始まる

昭和20年8月 終戦

昭和22年8月 東北地方ご巡幸の帰路にお立寄り

になり、その後は毎年おいでになる

昭和34年4月 明仁親王殿下と正田美智子さんご

成婚

昭和35年2月 皇太子徳仁親王殿下ご誕生

昭和40年11月 文仁親王殿下ご誕生

昭和44年4月 清子内親王殿下ご誕生

県道21号線は、那須御用邸付近を通っていることから「ロイヤルロード」と呼ばれています。

御用邸と町の発展

那須湯本は、明治時代の中
期に東北線宇都宮・黒磯間が
開通し、黒磯・湯本間の道路
改修が行われたことにより、
年々湯治客が増えています。
それに加えて、大正15年、那
須御用邸が建築されたため、
那須の土地が全国に広く知ら
れるようになります。

御用邸近く、那須湯本の東
町地区に、組合組織による初
めての別荘地「那須近光荘」
が開発されたのも昭和初期の
頃です。緑豊かな広い区画に水
道、温泉、排水設備が整い、
組合員は学者や一流実業家と
なっていました。建物は別荘
住宅に限られ、華美なもので
はなく質素を重んじ、営業を
禁じていたといえます。

理想的な別荘地が造られた
ことをきっかけに、その後も那
須高原地区、見晴町地区の開
発が進められ企業の保養所や
個人の別荘が建てられます。
そして30年代から高度成長期
には、自然景観に恵まれ首都
圏に近いことから、大規模な
別荘開発が那須山麓一帯へと
つながっていくのです。

地域住民との関わり

御用邸では、地元青年団と
婦人会による清掃奉仕が長く
続けられていました。

また、御用邸消防団詰所では、
皇室の方々の滞在時には、
町消防団が昼夜交代で火災に
備えて待機します。昭和46年
1月に発生した葉山御用邸の
建物焼失を受け、同年3月10
日には初めての御用邸消防訓
練が行われ、消防署と消防団
によって出動体制の確認が行
われました。町が一丸となり
万全を期して、皇室の方々に
歓迎しお出迎えしてきたこと
が伺えます。

青年団・婦人会
御用邸清掃
20年間も続く善意

天皇・皇后
陛下が、七、この清掃奉仕は、もう二十年以
月十九日那須上も毎年続けられており、この日
御用邸に行幸も、クマ手やカマ・シヨベル・青
啓遊はされる
に先立ち、七
月十一日青年
団員一五七名
婦人会員六四
名により、一
般通行が禁ぜ
られていた御
成道から、嚶
鳴亭までと、
邸内庭園の
草取り等の
清掃奉仕が
行なわれまし




年達は、現代つ子を発揮して原動
付車刈機まで持参する分団もあつ
て、午後二時までにすつかりされ
いに仕上げられた。

〔広報那須〕昭和46年8月号より

近年では、平成23年の東日
本大震災発生後、天皇皇后兩
陛下からの「宮内庁関連施設
を役立ててほしい」とのお気持
ちにより、町内で避難生活を
送っている被災者を対象に、付
属建物のひとつである那須御
用邸供養員宿舎の入浴施設が
開放されました。同年3月か
ら4月の7日間で159名が
利用し、両陛下の温かいお気持
ちと数日ぶりの入浴に、被災
者が心も身体も癒されたこと
は、記憶に新しいところです。
次号では、天皇皇后両陛下
を始め皇室の方々と町民のふ
れあいについて、さらにご紹
介します。